

目的 茅野市を「幸せを実現できるまち」にすること

茅野市に住む人、働く人、関わりのある人、茅野市を訪れる人など、あらゆる人が、自己実現を通じて、その人なりの幸せを実現できるまち、その幸せがまた別の誰かの幸せにつながっていくまち、そして、その幸せの連鎖が未来に向かって続いていくまち、茅野市を、そんな「幸せを実現できるまち」にすることを目的（まちづくりの普遍的なテーマ）にしています。

目標1 「たくましく やさしい しなやかな 交流拠点CHINO」の実現

目的の達成のため、この5年間で目指すまちの将来像として、これまで茅野市がまちづくりで育んできたまちの「たくましさ」（稼げる仕事、誇れる産業、まちにあふれる活気や魅力、挑戦し続ける前向きさなど）、「やさしさ」（人の命や自然を大切に、自分以外を思いやる心、安心して子どもを産み、育てられる環境など）を基本に、これからは、変化が予想される社会経済情勢へ柔軟かつ的確に対応するための「しなやかさ」（持続可能なまちの実現に向け、まちの仕組みを変え、自らも変わり続けることなど）を、これまで以上に意識していく必要があります。

そして、私たちが幸せを実現するための原動力は、多様な交流です。

茅野市が考える3つの交流

- 1 ～「若者に選ばれるまち」の実現～ 市外からの人や企業の呼び込み、市内外での交流
- 2 ～地域における支え合い、助け合い～ 市内(地域)における支え合い、助け合いなどの交流
- 3 ～“知”の(CHINO)交流拠点の創出～ 知識や知恵など目に見えない価値や資産の交流

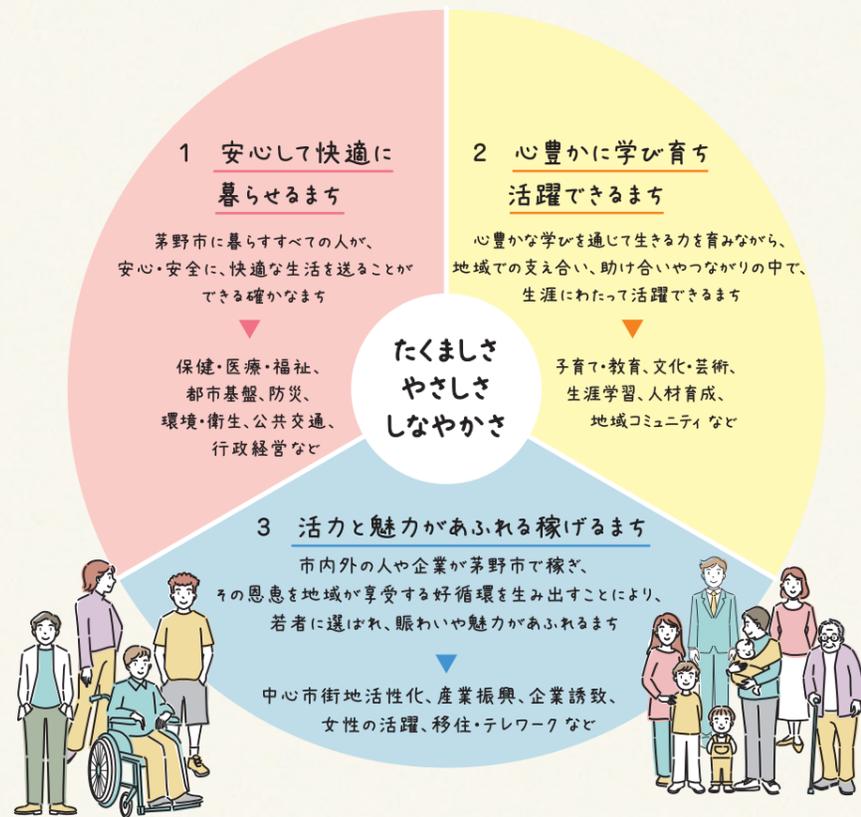
人口減少・超高齢化が進む今だからこそ、交流を拡大し、これまで茅野市が培ってきた「たくましさ」、「やさしさ」、「しなやかさ」に、さらに磨きをかけ、新しい時代に対応した「幸せを実現できるまち」の創造を図ります。

目標2 3つのまちの姿

様々な交流の力を発揮し、まちの「たくましさ」、「やさしさ」、「しなやかさ」に磨きをかけるため、右図のとおり3つのまちの姿を【目標2】とし、「幸せを実現できるまち」の具現化を目指します。

総合計画では、3つのまちの姿のそれぞれに関係する分野を27の基本計画としてまとめています。

基本計画には、それぞれ目指すまちの姿や成果指標・目標などを【目標3】として掲げ、その実現に向け、この5年間で重点的に取り組む具体的な施策や、その方針などを定めています。



第6次茅野市総合計画の詳しい内容は、茅野市ホームページに掲載しています。QRコードからご覧ください。



第6次茅野市総合計画による これからのまちづくり



問 企画課 企画係 ☎72-2101 (内線152)

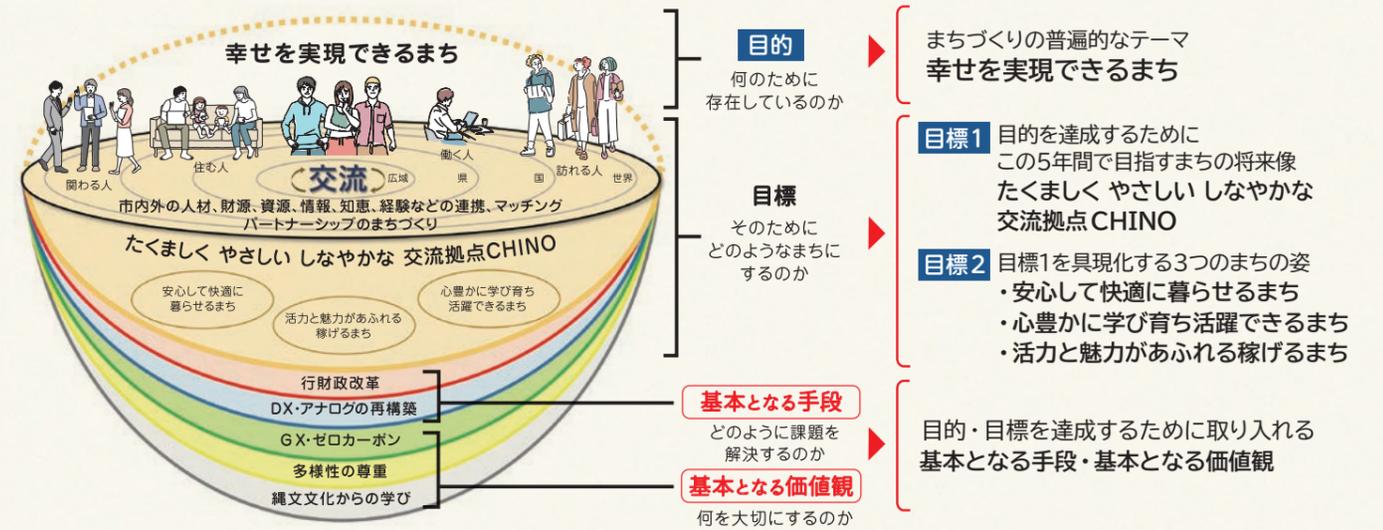
茅野市は、平成30年度（2018年度）から第5次茅野市総合計画に基づきまちづくりを進めてきました。しかし、人口減少・超高齢化の進展に加え、新型コロナウイルスの感染拡大やロシアのウクライナ侵攻など先の見えない社会経済情勢の中、世界共通の目標としてSDGsやゼロカーボンが掲げられるなど、この計画策定時の想定を超え、茅野市を取り巻く環境は大きく変化しています。

そこで、今後も目まぐるしい変化が予想されるこうした状況へ的確に対応しまちづくりを進めていくため、新たに第6次茅野市総合計画を策定しました。

この計画は、茅野市の強みをいかしながら、新たな手段や価値観を取り入れ、持続可能なまちの実現を目指すまちづくりの指針であり、市民と行政が一緒に考え、策定し、実行する、市政経営に係る最上位の計画です。

● 計画期間 令和6年度（2024年度）～令和10年度（2028年度）の5年間

● 計画（基本構想）のイメージと概要



基本となる手段

行政改革 公民協働のまちづくりの仕組みや行政内部の仕事のやり方、公共施設、行政サービスのあり方などを再構築します。

DX・アナログの再構築 人の手が必要な部分をしっかり守りながら、置き換え可能な部分にデジタル技術を取り入れ、様々な仕組みや手順などを再構築します。

基本となる価値観

GX・ゼロカーボン 2050年のゼロカーボン達成を見据え、自然災害の発生抑制、自然環境の保全などを通じて、安心、安全な暮らしと地域経済の活性化を同時に実現します。

多様性の尊重 あらゆる人が、お互いの考え方や生き方などを尊重し、それぞれの個性や能力を発揮できる環境を整え、さらなる交流の促進を図ります。

縄文文化からの学び 市内に多数存在する縄文時代の文化遺産を通じて多くの学びにより、現代社会が抱える様々な課題を解決に導く「価値」を見出します。